

英検

公益財団法人

日本英語検定協会

日本英語検定協会

統合報告書 2026



はじめに

学びを支える仕組みを、社会へ。

この法人は、日常の社会生活に必要な
実用英語の習得及び普及向上に資する
ため、英語の能力を判定し、また様々な
機会を通じてその能力を養成すること
により、生涯学習の振興に寄与することを
目的とする。

(公益財団法人 日本英語検定協会「定款」第3条「目的」より)

公益財団法人日本英語検定協会は、1963年の創設以来60余年にわたり、「実用英語の習得及び普及向上に資する」という定款の目的のもと、実用英語技能検定(英検)をはじめとする各種検定事業を中心に、調査研究、教員研修、研究助成など、実用英語の普及・向上を支える事業を展開してまいりました。英語を学びたいと願うすべての人に寄り添い、学びの機会を支えることは、私たちに課せられた社会的使命であり、公益法人としての重要な責務であると考えています。

近年、生成AIやデジタル技術の進展、グローバル化の加速などにより、英語教育を取り巻く環境は大きく変化しています。学校教育においては4技能を重視した英語教育改革が進み、社会においても、英語を「知識」として学ぶだけではなく、コミュニケーションや意思決定の場面で実践的に活用できる力が求められるようになってきました。また、学校教育から大学教育、社会人学習に至るまで、生涯にわたり学び続ける環境整備の重要性も高まっています。

こうした変化を踏まえ、英検協会では、従来の「試験団体」という役割にとどまらず、ITやAIを活用しながら、学習者一人ひとりの学びを支える「教育インフラ」へと進化していくことを目指しています。受験機会の拡充や試験運営改善に取り組むとともに、「生涯学習プラットフォーム」の開発やデジタル証明書活用の推進、AIを活用した英語教育支援など、学びと社会をつなぐ新たな基盤づくりを進めています。

また、学校教育にとどまらず、社会人や企業に向けた実践的な英語学習支援にも取り組んでいます。ビジネス現場で求められる英語力の可視化や、AIを活用した学習支援などを通じて、「学ぶ」「測る」「活かす」を循環させる新



たな学習環境の構築を進めています。これらの取り組みは、単なる利便性向上や業務効率化を目的とするものではなく、より多くの学習者に学びの機会を届け、一人ひとりの可能性を支えることにつながるものです。

さらに、英語学習者や教育機関、企業、地域社会とのコミュニケーション強化にも取り組み、継続的な情報発信や対話環境の整備を進めています。社会の変化や多様化するニーズに的確かつ迅速に応え、透明性の高い組織運営を実現することは、「実用英語の習得及び普及向上に資する」という公益法人としての目的を果たすうえで、重要な責務であると考えています。

私たちは今後も、公益財団法人としての使命を果たしながら、テクノロジーを活用し、学び続ける人々を支える社会基盤づくりを進めてまいります。そして、英語学習や英語教育に関わるあらゆる人々とともに、日本社会の未来を支える実用的な英語力の向上に貢献してまいります。

本報告書を通じて、英検協会の取り組みに対するご理解を深めていただけましたら幸いです。

2026年5月
公益財団法人 日本英語検定協会

対象期間
2025年度(2025年4月1日～2026年3月31日)

対象範囲
公益財団法人 日本英語検定協会

発行時期
2026年5月

見直しに関する記載についての注意事項

本報告書に記載されている将来に関する記載は、現時点で入手可能な情報に基づいて当協会が判断したものでありますが、これらには様々な不確実要素が内在しており、実際の業績等は今後様々な要因によって大きく異なる結果となる場合があります。

目次

価値創造ストーリー

- 3 価値創造ストーリー
- 5 理事長メッセージ
- 6 英語教育を取り巻く環境の変化と、英検協会の挑戦

英検協会直近の取り組み

- 7 受験機会の拡充
- 10 生涯学習に向けた新規事業
- 12 コミュニケーションの整備と充実

データで見る英検

- 13 英語力向上に向けた取り組みの成果
- 15 生産性向上の成果
- 19 他グローバル試験と比較しても、受験者数が多く、金額が安価

英検協会のガバナンス体制

- 21 より高い透明性を担保するために
- 23 持続的な公益事業を支える基盤整備

価値創造ストーリー

学びを支える教育インフラへ




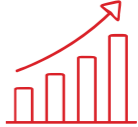

英検協会では、実用英語の習得及び普及向上という理念のもと、英語学習を支えるさまざまな事業を展開してきました。近年は、生成AIをはじめとするデジタル技術の進展や学びの多様化など、教育を取り巻く環境が大きく変化しています。こうした変化を踏まえ、英検協会では、英語力を「測る」だけでなく、学び続ける人々を支える「教育インフラ」として、新たな価値創出に取り組んでいます。

価値提供の源泉 (強み)

-  60余年の実績と信頼
-  累計受験者 1.4億人の受験者基盤
-  良質な試験問題の制作技術
-  公平かつ公正な採点・実施体制
-  成績表を通じた良質なフィードバック



社会課題・環境変化

-  人口減少・少子化
-  学びの多様化
-  生成AI・デジタル技術の進展
-  生涯学習ニーズの拡大
-  教育DXの加速

目指す姿

**すべての人が
生涯を通じて
英語力を伸ばし、
未来を切り拓く
社会の実現**



公共性・公平性を守り、変化を先取りしながら、学びの循環を支える教育インフラとして進化し続けます。

理事長メッセージ

「測る」から、「支える」へ。

学びを支える教育インフラを目指して

日頃より、英検をはじめとする、私共が実施運営する各種検定試験にご理解とご協力を賜り、心より感謝申し上げます。英語を学び、力を伸ばそうと努力されている受験者の皆様、学習を支えてくださる保護者の皆様、学校・塾・教育機関の皆様をはじめ、多くの方々のお力添えによって、当協会の事業は成り立っております。日頃より、各事業へのご理解とご協力を賜っておりますことに、心より感謝申し上げます。

近年、英語教育や英語学習、そして検定事業を取り巻く環境は、大きく変化しています。生成AIをはじめとするテクノロジーの進展に加え、学習スタイルや学びに対する価値観も多様化し、受験者に求められる学習環境や支援も変わりつつあります。

こうした変化の中で、私たちは今、英語力を「測る」にとどまらず、学び続ける一人ひとりを「支える」存在でなければならないと考えます。一人ひとりの学びや挑戦を支え、その先の成長へと歩みを進められるようにすること。それが、これからの英検協会に求められる重要な役割であり、使命であると受け止めています。

学習者一人ひとりが安心して学び、受験に臨める環境づくりは、英検協会にとって、これまで以上に大切な責務です。それを果たすべく、私たちは学びを取り巻く環境の変化を踏まえ、受験機会の拡充や試験運営の改善に取り組んでまいりました。あわせて、デジタル技術を活用した学習支援や、生涯にわたる学びにつながる仕組みづくりなど、学習者や教育現場の変化に寄り添う取り組みも進めております。これらはすべて、受験者一人ひとりの学びと挑戦を、これまで以上に支えていくための取り組みです。

また、AIやデジタル技術は人の役割を置き換えるものではなく、人にしかできない判断や創造に力を注ぐための技術であるといえます。私たちは、こうした技術を適切に活用することで、より多くの方に継続して学び続ける機会を届けるとともに、教育現場や社会が抱える課題に対しても、その解決の一助となれるよう力を尽くしてまいりたいと考えています。

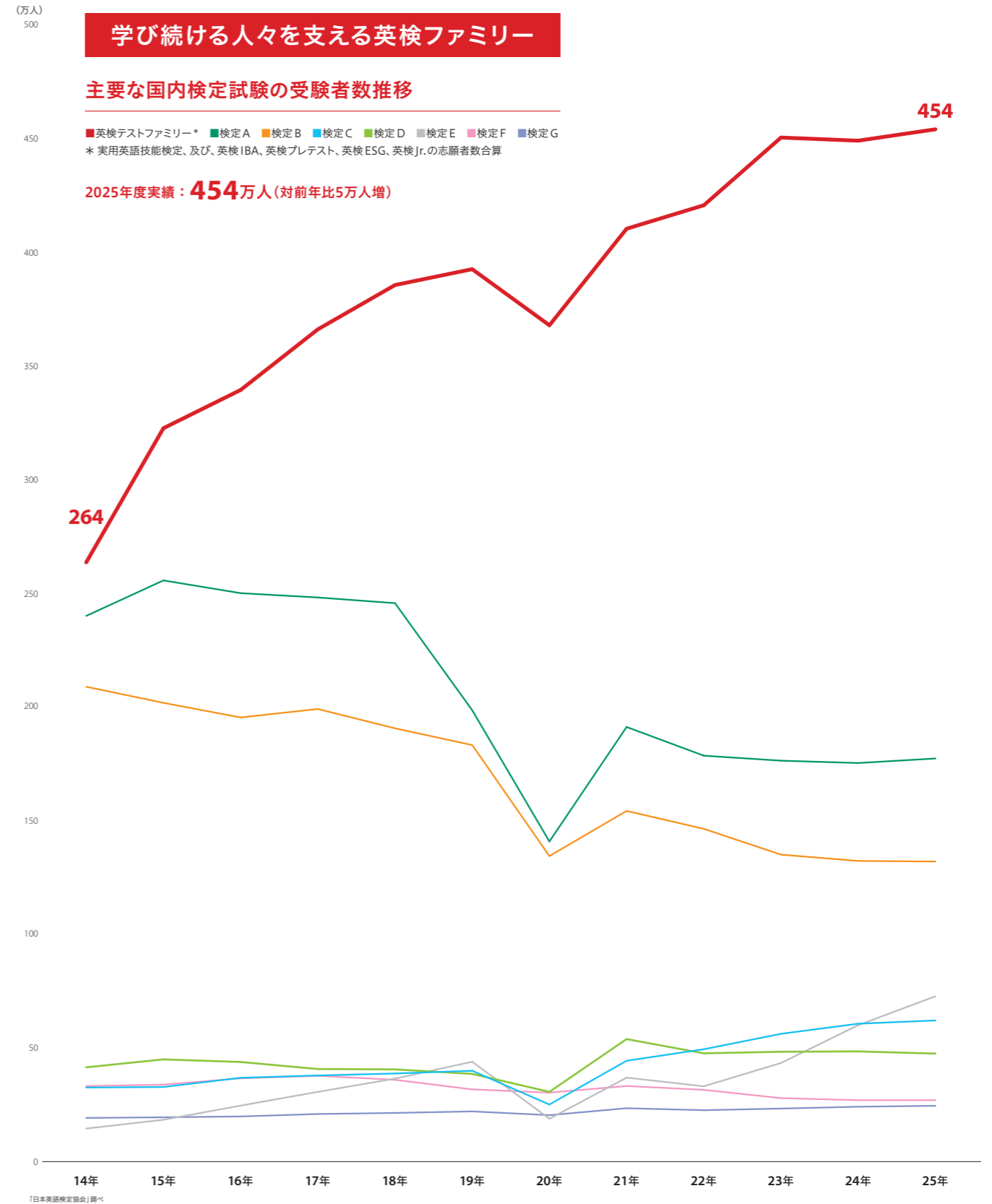
本報告書では、こうした考えのもとで進めてきた、受験環境整備や学習支援、生涯学習プラットフォーム構築をはじめとする各種の取り組みをご紹介します。これからご紹介する一つひとつの施策が、受験者の皆様、そして学びを支える皆様のために、英検協会がどのように歩みを進めてきたかをお伝えするものとなれば幸いです。英検協会は今後も、公益財団法人としての使命を果たしながら、学び続ける人々を支える教育インフラの構築を通じて、英語学習や英語教育に関わる多くの方々とともに、日本社会の未来を支える実用的な英語力の向上を目指してまいります。

公益財団法人 日本英語検定協会
理事長

松川 孝一

英語教育を取り巻く環境の変化と、英検協会の挑戦

生成AIをはじめとするデジタル技術の進展や、学びの多様化、人口減少など、英語教育を取り巻く環境は大きな転換期を迎えています。こうした変化のなかで、英検協会では、受験機会の拡充に加え、生涯学習プラットフォームやAIを活用した教育支援など、学びを支える新たな基盤づくりを進めています。



英検協会直近の取り組み

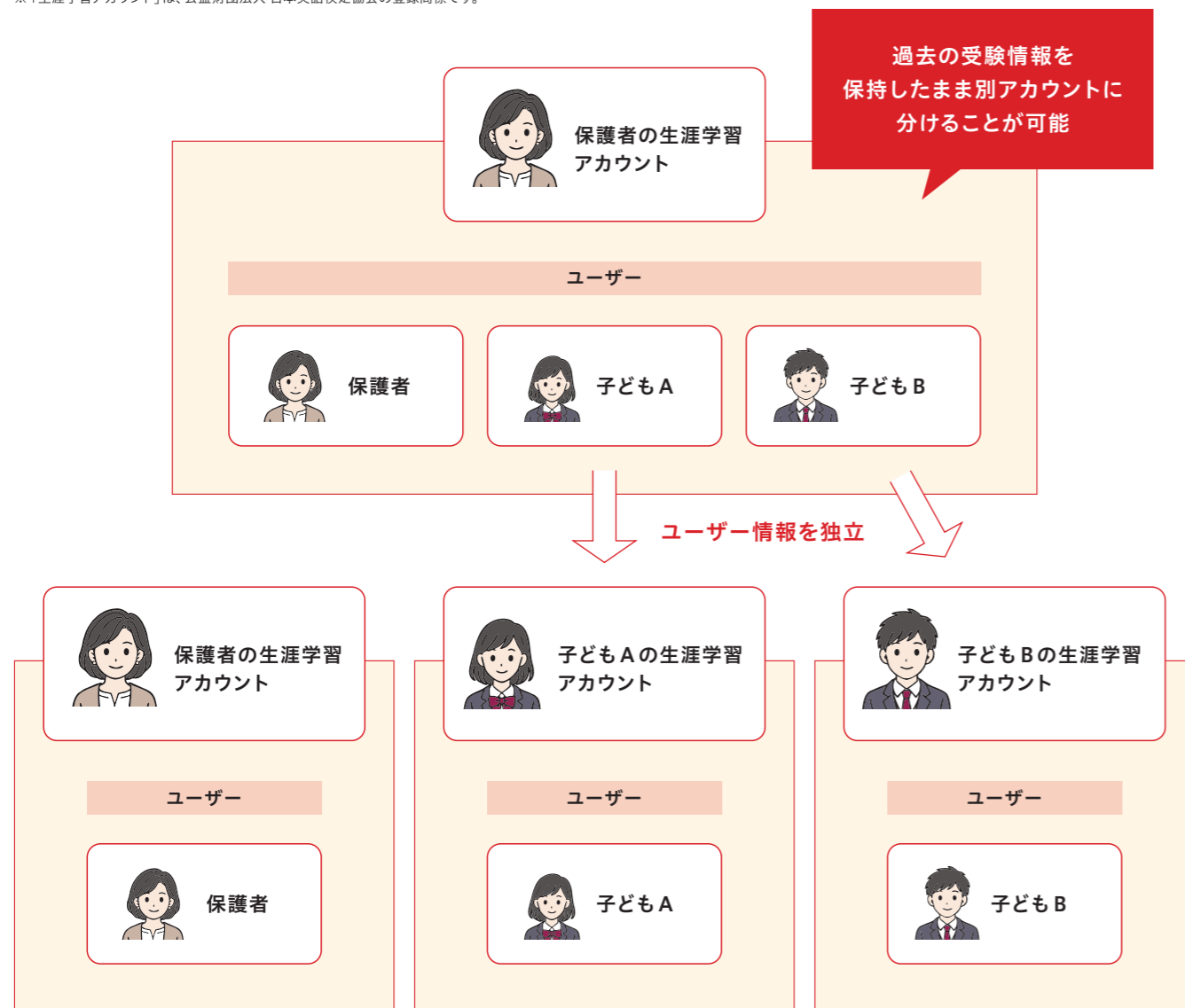
1 受験機会の拡充 ～より多くの学習者に開かれた受験環境へ

英語学習を取り巻く環境が変化するなか、英検協会では、より多くの学習者が安心して学びに取り組める受験環境の整備を進めています。2025年度は、受験者視点に立ったサービス改善や試験運営の見直しを行うとともに、英語学習初期段階に対応する英検6級・7級の新設を発表しました。

生涯学習アカウント®の利便性を向上

受験者から寄せられた声を踏まえ、「生涯学習アカウントウェブサイト」および「生涯学習アカウントポータル(受験者マイページ)」の改善を実施しました。保護者が作成したアカウントから、お子さま自身のアカウントへ受験情報を引き継ぐ方法を分かりやすく表示したほか、ログイン時の認証回数を軽減するなど、操作性と利便性の向上を図っています。これにより、受験者が申込情報や合否結果、各種証明書の取得などをより円滑に利用できる環境を整備しました。

※「生涯学習アカウント」は、公益財団法人 日本英語検定協会の登録商標です。



試験の公平性・厳格性を強化

大学入試等での英語外部検定の活用が広がるなか、試験の信頼性を維持するため、不正行為防止への対応強化が一層求められています。こうした状況を踏まえ、2026年度第1回検定より、「英検(従来型)」「英検S-CBT」「英検S-Interview」において英検3級以上の受験者を対象に、試験会場にて協会が定める顔写真付き身分証明書の原本提示を必須化することを決定しました。学生証・生徒手帳、マイナンバーカード、パスポート、運転免許証などを用いた本人確認を実施するとともに、協会が定める方法で期日までに本人確認が行えない場合には成績結果を無効とする運用を導入することで、受験者が安心して受験できる、公平・公正な試験環境の整備を進めています。

AI・ICT活用による効率化を受験者支援へ

2026年度第1回検定より、「英検(従来型)」「英検S-CBT」「英検S-Interview」の検定料を全級一律で100円引き下げました。これはAIを活用した問題作成・採点業務の改革や、生涯学習アカウント等のデジタルサービス推進など、ICT活用による業務効率化を進めてきたことが背景にあります。物価上昇による教育費負担が増加するなか、英検協会では、公益財団法人として、受験者への還元とより多くの学習者が英語学習に取り組みやすい環境作りを進めています。

【2026年度「英検(従来型)」「英検S-CBT」「英検S-Interview」の検定料一覧】(税込) ※全級100円引き

申込区分	実施会場				1級	準1級	2級	準2級プラス	準2級	3級	4級 ¹⁾	5級 ¹⁾	
	一次試験	二次試験	本会場		現在	新料金	現在	新料金	現在	新料金	現在	新料金	
英検(従来型)	個人/団体	本会場	本会場	本会場	現在	12,500円	10,500円	9,100円	8,700円	8,500円	6,900円	4,700円	4,100円
					新料金	12,400円	10,400円	9,000円	8,600円	8,400円	6,800円	4,600円	4,000円
英検(従来型)	団体申込のみ	準会場	準会場	本会場	現在	—	—	6,900円	6,400円	6,100円	5,000円	2,900円	2,500円
					新料金	—	—	6,800円	6,300円	6,000円	4,900円	2,800円	2,400円
「英検S-CBT」				テストセンター	現在	—	10,600円	9,700円	9,300円	9,100円	7,800円	—	—
					新料金	—	10,500円	9,600円	9,200円	9,000円	7,700円	—	—
「英検S-Interview」				受験上の配慮措置に適した本会場	現在	12,600円	10,600円	9,700円	9,300円	9,100円	7,800円	—	—
					新料金	12,500円	10,500円	9,600円	9,200円	9,000円	7,700円	—	—

¹⁾：4級・5級は一次試験のみ
 ※ 海外会場の検定料(本会場・準会場)は、別途、確定次第、英検ウェブサイトにてご案内いたします。

CBTセンターの増設により受験機会を拡充

近年、受験日程や会場を柔軟に選択できるCBT方式へのニーズが高まっています。英検S-CBTの志願者数は年々増加を続けており、今後もさらなる需要拡大が見込まれます。また、IELTSにおいても、ペーパー版の廃止に伴い、コンピューター版受験への移行が進んでいます。受験者が安心して受験できる環境整備や、安定した試験実施体制の構築がこれまで以上に重要となることを見据えて、英検協会では、既存のテストセンターとも連携しながら、直営CBTセンターの増設を進めています。センターの運営にあたっては、英検S-CBTの実施や、既存のIELTS直営テストセンター運営で培ってきたノウハウを活かし、公平・公正な試験運営と、安定した受験環境の整備につなげていきます。今後、直営CBTセンターの整備を順次進めることで、受験機会のさらなる拡充と、検定事業を支える試験実施基盤の強化を図っていきます。

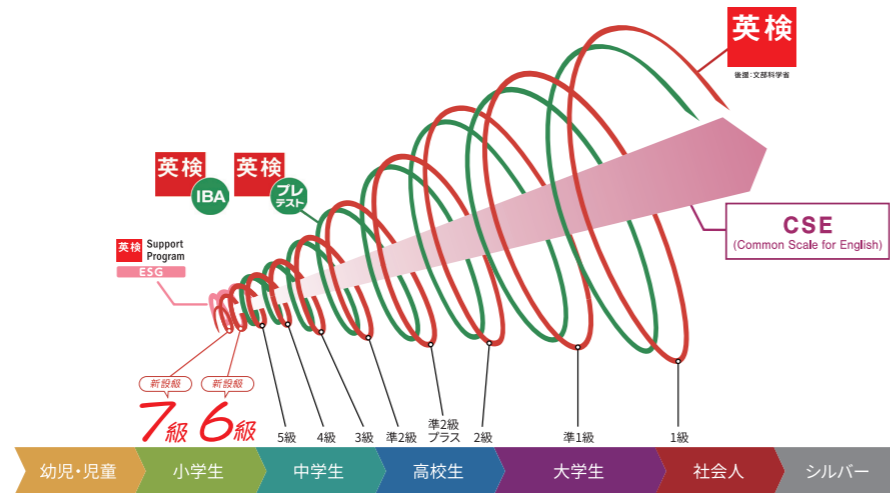
英検6級・7級を新設

2026年度第3回検定より、「英検(従来型)」に英検6級・7級を新設することを発表しました。従来の英検5級から英検1級までの8つの級に加え、新しく基礎レベルに位置づけられるこの2つの級は、英検を活用した「生涯にわたる英語能力育成」のスタートラインを早めるものです。

●英語学習初期段階に対応

英検は、1級から5級まで、ライフステージや英語技能にあわせて、だれでも身近にチャレンジできる学習目標として活用されています。今回新設される英検6級は小学校卒業程度～中学校入門期、英検7級は小学校初級程度の英語力に対応させる予定です。

我が国の英語教育の特徴を踏まえながら、英語学習初期段階の成果を適切に測定することにより、英検協会はこれからも多くの皆さまの英語学習の支援を行ってまいります。



●CBT形式を導入予定

英検6級・7級では、コンピューターまたはタブレットを用いたオンライン受験(CBT形式)の導入を予定しています。学校教育における1人1台端末の整備を受け、より多くの小学生、中学生にとって、英語学習の過程で英検に取り組みやすい環境をご提供できるよう努めてまいります。



●問題形式を段階的に公開

英検6級・7級の導入にあたり、リーディングやリスニングに関する問題形式の一部を公表しています。また、問題の指示文の漢字にはルビをふります。受験を考えている皆さまに、余裕をもって学習を進め、自信をもって臨んでいただけるよう、今後も問題形式の一部を順次公開していきます。

英検6級リーディング 問題形式

6級 リーディング
【まとまりのある英文を読み、その内容を適切に表わすイラストを選ぶ】

英文の内容をいちばんよくあらわしているイラストを、1～3の中から1つえらびなさい。

On Sunday, I went to the aquarium with my brother. We saw sharks! I ate ice cream, too. It was fun.

解答：1

英検7級リスニング 問題形式

7級 リスニング
【イラストについての質問を聞き、答えとして適切なものを選ぶ】

イラストについての質問を聞いて、答えとしていちばんあっているものを1～3の中から1つえらびなさい。英文は2回読まれます。

《スクリプト》 What time do you eat breakfast?
1. I eat breakfast every morning.
2. I eat bread for breakfast.
3. I eat breakfast at seven.

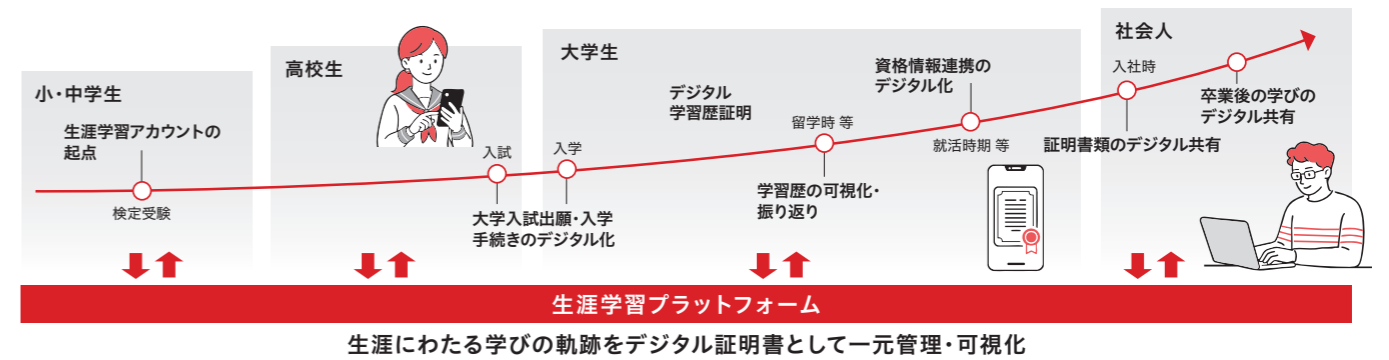
解答：3

2 生涯学習に向けた新規事業 ～学びと社会をつなぐ新たな基盤づくりへ

英検協会では、英語学習を起点に、生涯にわたる学びやキャリア形成を支える新たな仕組みづくりを進めています。2025年度は、「生涯学習プラットフォーム」の開発やデジタル証明書活用の拡大に加え、AIを活用した英語教育支援やビジネス領域向けサービスの展開など、学びと社会をつなぐ取り組みを推進しました。

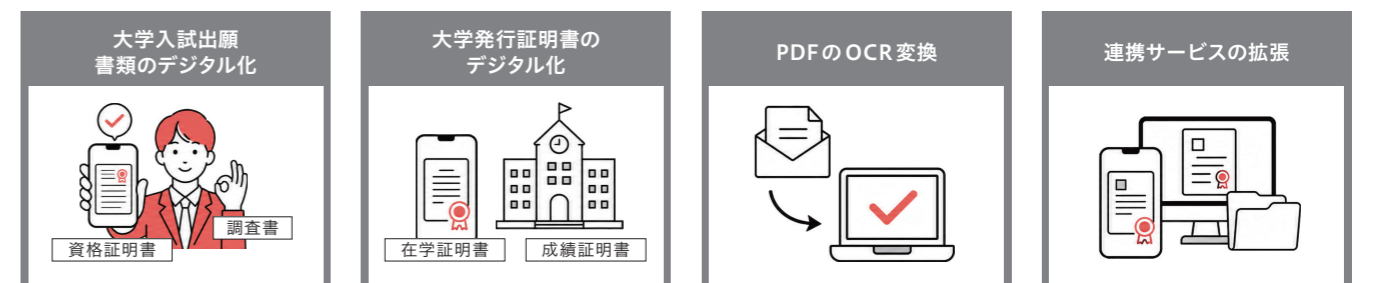
学習履歴・資格証明をデジタルで一元管理

英検協会は、「生涯学習プラットフォーム」の開発を進めています。本プラットフォームは、学習者が各ライフステージで蓄積する学習履歴や資格証明をデジタル上で一元管理し、小・中・高・大学・企業間で安全かつ円滑に共有できる環境を目指すものです。入試からキャリア形成、社会人としての学び直しに至るまで生涯にわたる学習成果の証明と活用を支える環境整備を進めています。



“信頼できるデジタル証明”の実証を実施

2025年度は、国立大学法人 宇都宮大学と共同で、大学・高校が発行するPDF形式の成績証明書や在学証明書等を、“信頼できるデジタル証明(Verifiable Credential: VC)”として扱う実証を行いました。改ざん防止機能を備えたデジタル証明として発行・提出できることや、高校調査書の「非閲覧制御」機能などを確認し、教育現場における証明書業務のデジタル化と利便性向上につなげています。



学生による試験運用を開始

宇都宮大学では、学生を対象に、デジタル証明書発行の試験運用も開始しました。学生が「生涯学習プラットフォーム」上で証明書発行を申請し、大学側が発行・交付を行う一連の流れを確認しています。体験した学生からは、「24時間いつでも申請できる」など、利便性向上を評価する声も寄せられました。



社会人・実務領域への展開を推進

英検協会では、社会人や専門人材育成に向けて、実務で求められる英語力の可視化と育成を支援する取り組みを進めています。ビジネスやスポーツ分野など、英語を実践的に活用する領域へサービスを展開しています。

「CEST Business」の提供を開始

英検協会では、社会人の英語学習やグローバル人材育成に向けた新たなサービス展開も進めています。2025年度は、ビジネス英語テスト「CEST Business (セスト ビジネス)」の提供を開始しました。ビジネスシーンで求められる4技能をオンラインで測定し、CEFRおよびCambridge English Scaleの両方で評価を行うことで、英語力の可視化や企業における人材育成支援につなげています。

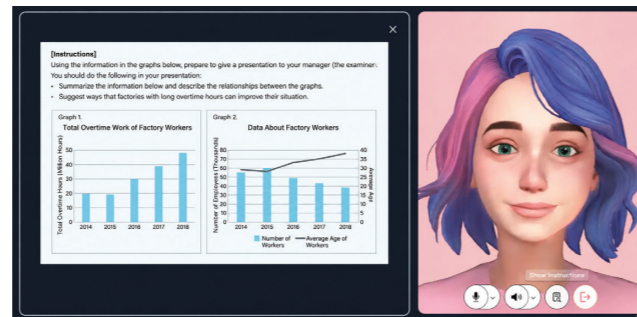
CEST Businessの概要

テスト名称	CEST Business (Cambridge English Skills Test Business) 読み: セスト ビジネス (ケンブリッジ・イングリッシュ・スキルズ・テスト・ビジネス)
サービス開始日	2025年10月1日(水)
ウェブサイト	https://www.eiken.or.jp/cestbusiness/
特長	<ul style="list-style-type: none"> ・ CEFRレベル (Below A1～C1 or above) とスコア (80-180+) の試験結果 ・ ビジネスに特化したテストコンテンツ ・ 選べる受験方法 (テストセンター、リモート (自宅等)、社内 (会議室等))
実施するテスト	<ul style="list-style-type: none"> ・ Reading & Listening: 2,900円 (各30～40分 / アダプティブテスト) ・ Writing: 3,900円 (45分 / タイピング) ・ Speaking: 6,900円 (約15分 / 吹き込み) ※複数技能を一緒にお申し込みいただくとセット割引がございます。
法人受験について	法人でご利用の場合は、ウェブサイトよりトライアル受験のご希望を受け付けます。

学習・評価を一体化したAIトレーニングを提供

英検協会では、GCAS / CEST Businessと連動したAIトレーニングアプリの提供を開始しました。学習、測定、証明を一体的に活用できる環境を整えることで、実務で求められる英語運用力の強化を支援しています。

本アプリでは、AIとの双方向ディスカッションや実務シナリオ演習に加え、学習進捗やCEFRレベル推移の可視化などにも対応しています。企業研修や自己学習など、多様な場面での活用を想定し、社会人の継続的な英語学習を支える取り組みを進めています。



スポーツ通訳検定に関する業務提携を締結

英検協会は、一般社団法人 スポーツマネジメント通訳協会との業務提携基本合意を締結し、スポーツ通訳検定の運営・普及に向けた取り組みを開始しました。本提携を通じて、スポーツ分野における高度な専門通訳人材育成を支援するとともに、「次世代検定プラットフォーム」の活用、試験問題の共同開発、普及促進活動などを進めています。英検協会が培ってきた検定運営におけるノウハウを生かし、公平・公正な試験運営を基盤とした、専門領域における新たな検定モデルの構築を目指しています。

3 コミュニケーションの整備と充実 ～より開かれた情報発信と対話を目指して

英検協会では、受験者や教育機関、社会との継続的なコミュニケーションの充実にも取り組んでいます。2025年度は、『統合報告書2025』の公開や公式X(旧Twitter)アカウントの開設を通じて、情報発信の強化とより開かれた対話環境の整備を進めました。

『統合報告書2025』を公開

英検協会では、2025年7月に『統合報告書2025』を公開しました。本報告書は、過去10年間の施策や成果、2024年度の取り組み、財務・非財務データ、ガバナンス体制などを統合的にまとめたもので、公益財団法人として果たすべき役割や今後のビジョンを社会へ発信することを目的としています。受験機会の拡充やAI・DX推進、生涯学習支援など、多様な取り組みを可視化し、継続的な情報開示につなげています。



公式Xアカウントを開設

2025年7月には、実用英語技能検定(英検)の公式X(旧Twitter)アカウントを開設しました。試験に関する注意事項や受験者向け情報を迅速に発信するとともに、受験者が必要な情報に円滑にアクセスできる環境づくりを進めています。運用にあたっては、英検協会のソーシャルメディア運用ポリシーに基づき、適切で分かりやすい情報発信に努めています。今後も、受験者が安心して受験に取り組める環境づくりを進めてまいります。



英検協会公式Xアカウント (@eiken_kouhou)

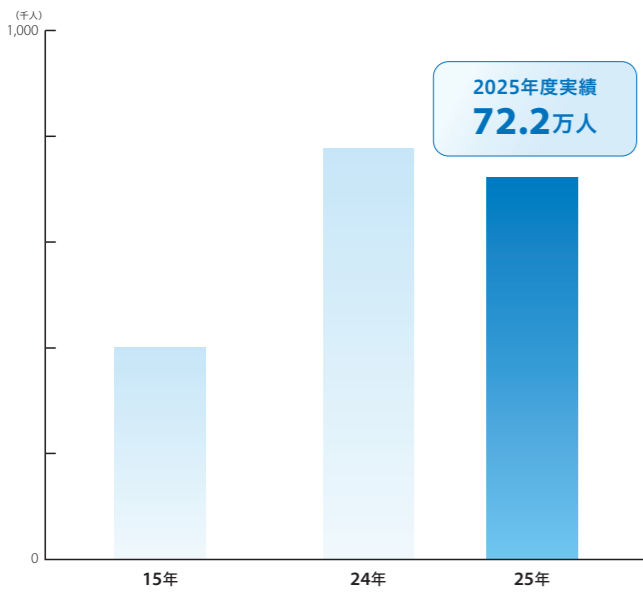
データで見る英検 ～英語力向上に向けた取り組みの成果～

大学入試改革、英語教育改革への対応を通じ、時代の変化を捉えながら受験機会を拡大させることで公正性・公益性を担保しつつ英語能力向上に努めております。

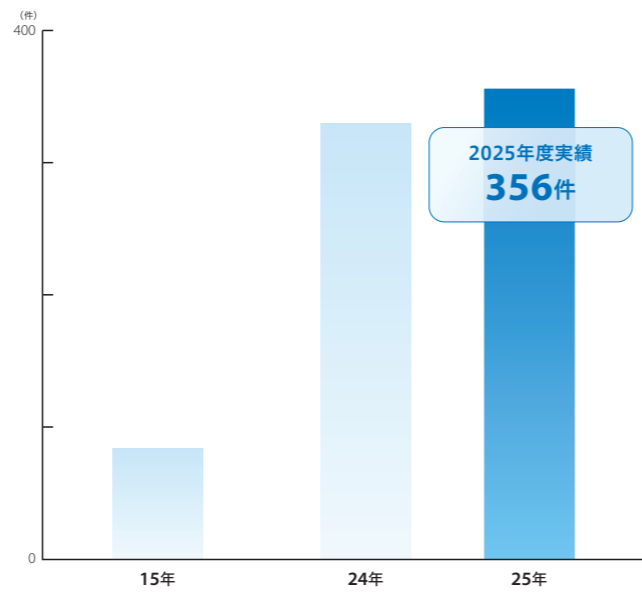
英語力向上に向けた取り組みと公正性・公益性に資する受験機会を担保する取り組み

英検 IBA を用いた英語能力向上事業への取り組みを継続・拡大し、自治体と連携することで英語力向上を支援しています。

英語能力向上事業の受験者数推移

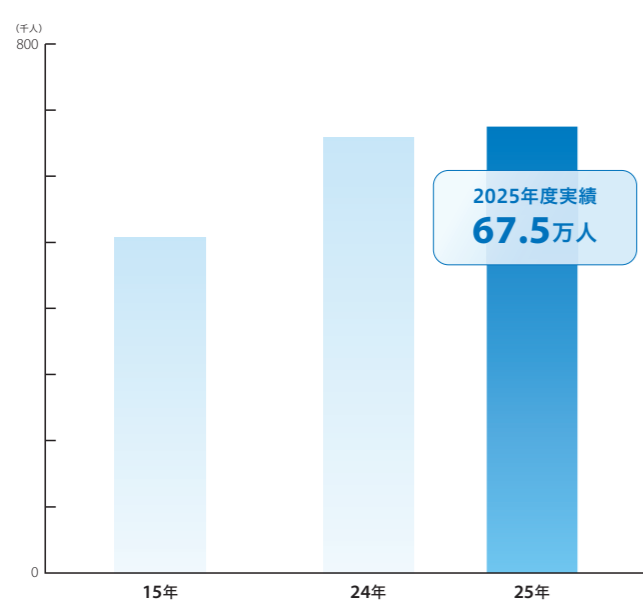


検定料の公費補助実施の自治体数推移

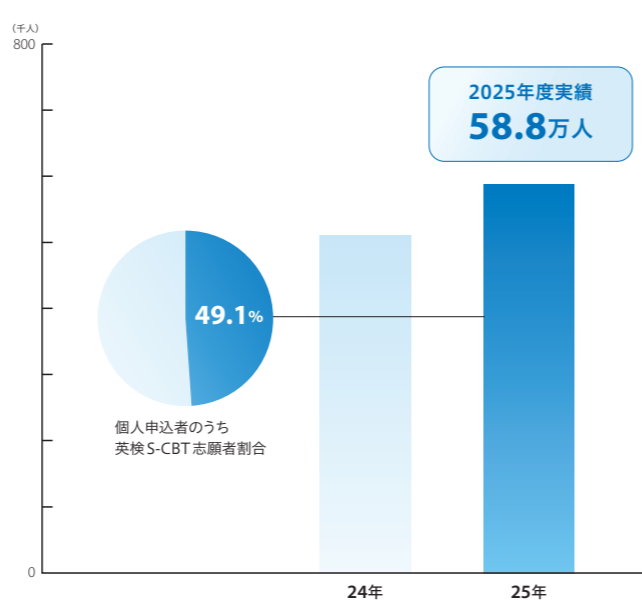


全国約2,000の団体(塾・英会話教室等)のみなさまのご協力のもとで準会場での一般受験者を受け入れたり試験の品質を維持しつつCBTの導入を進めたりなどの受験機会の拡大により、受験者にとっての利便性を高めています。

塾利用の志願者数推移



英検 S-CBT 利用状況

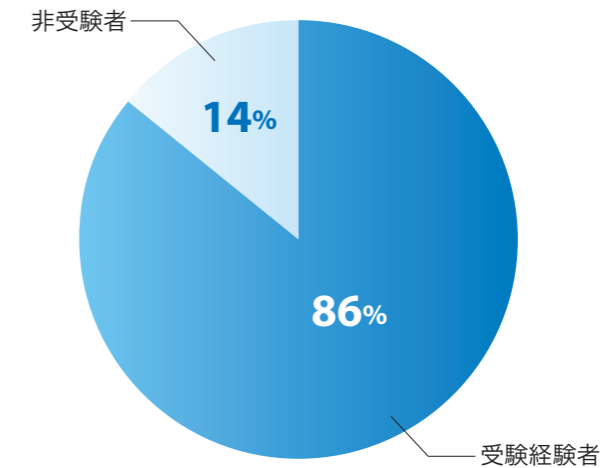


成果としての中高生の利用者増加と英語力向上への貢献

高卒時の英検テストファミリー*受験経験者の割合(24年)

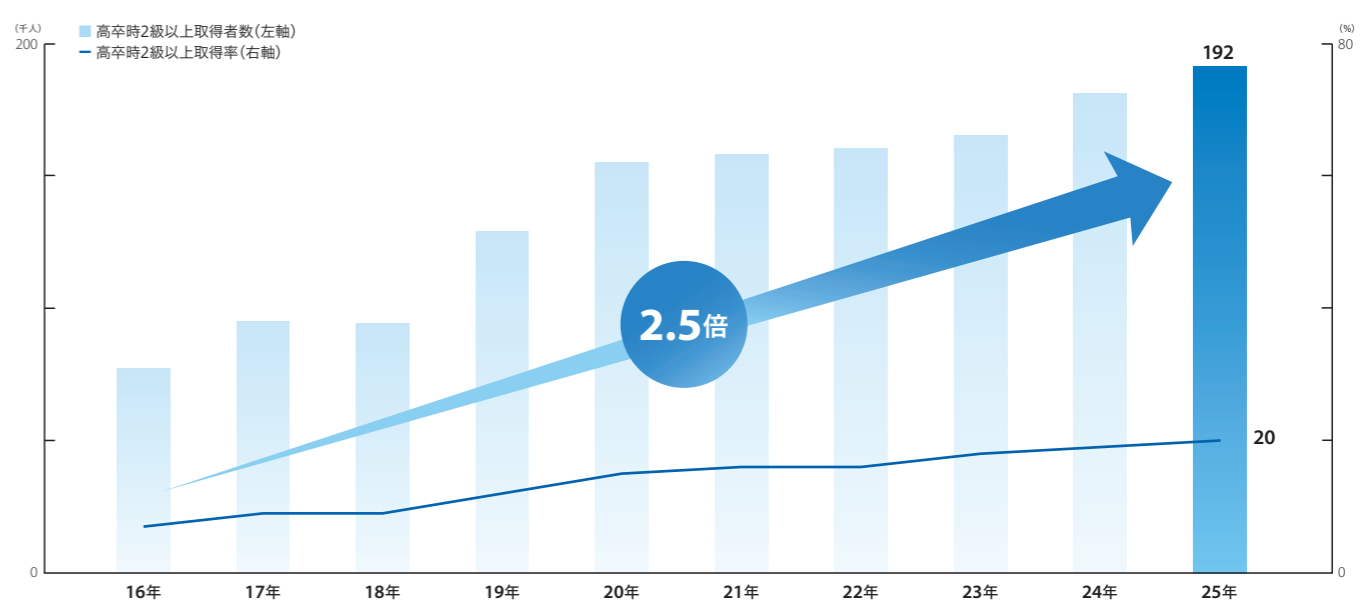
受験機会の拡大に努めた結果、高校卒業までに8割超が英検テストファミリーの受験経験があります。継続的な英検の受験を通じて高校卒業時の2級以上取得率は向上しており、取得者数も大きく増加しています。

文部科学省が英語力の到達目標として掲げるレベルに達する生徒が増えており、英語教育改革や大学入試改革への取り組みが成果として表れています。



*実用英語技能検定、及び、英検 IBA、英検 プレテスト、英検 ESG、英検 Jr. の志願者数合算

高卒時2級以上取得者数及び取得率推移



「日本英語検定協会」調べ
*2025年度は速報値

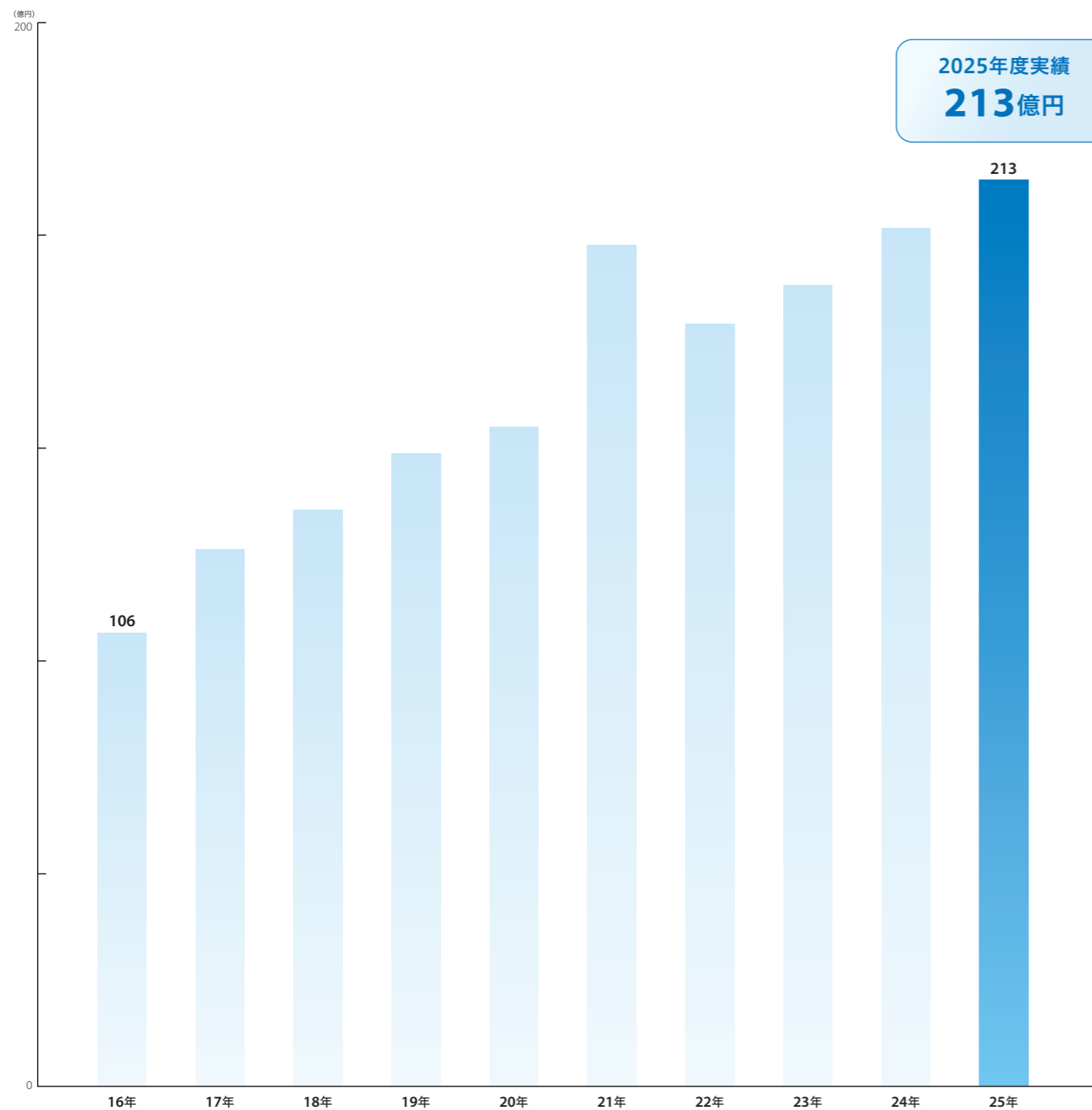
～生産性向上の成果～

様々な取り組みや業務改革を通じて、より多くの方へのサービス提供を実現し、環境変化も見据えた事業運営の効率化を進めております。

英語力向上の取り組みの結果、経常収益は大きく伸長

受験機会の増加の結果、経常収益は増加傾向。

経常収益の推移

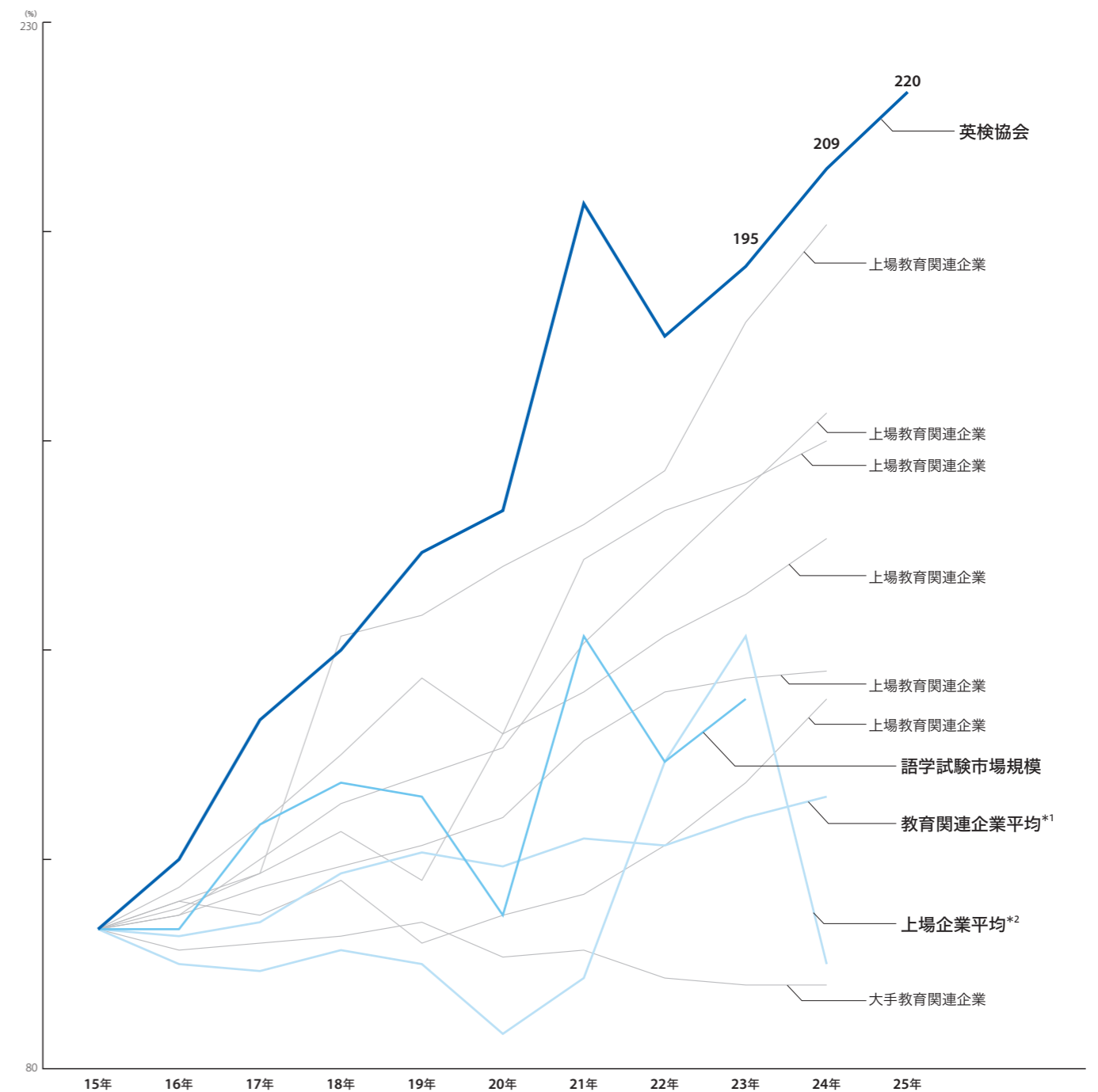


*2025年度は速報値

語学検定試験市場の成長をリード

少子高齢化が進むなかでも時代や社会情勢の変化を捉え、様々な活動を通じて受益者の拡大を果たしてきました。その結果、多くの受験者の利用を通じて継続的な事業の拡大を継続できています。他の語学検定と比べてもより多くの方の学習に利用いただいています。

英検協会の経常収益と教育関連上場企業の売上高成長率（15年を100とした場合の指数）



*1 グラフ内記載の国内教育大手7社の加重平均した伸長率

*2 東証プライム(市場変更前は旧東証一部)の非製造業の売上高合計に対する伸長率

出所) 語学試験市場規模: 矢野経済研究所「教育産業白書」を基に作成

*2025年度は速報値

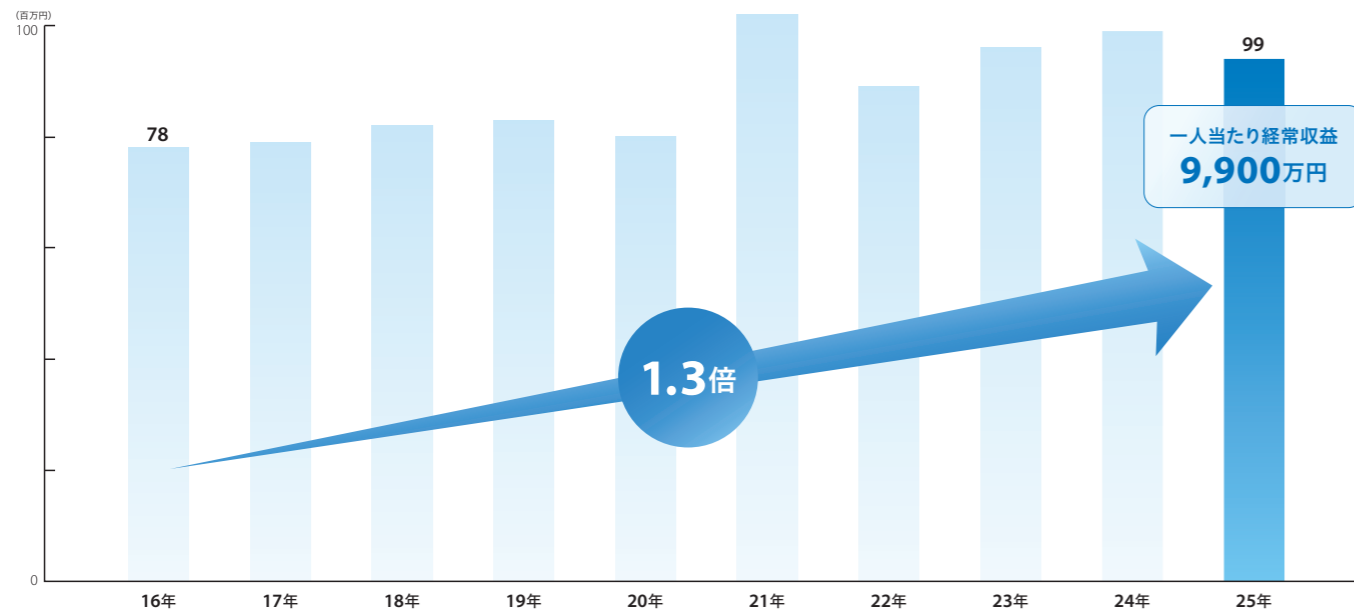
～生産性向上の成果～

様々な取り組みや業務改革を通じて、より多くの方へのサービス提供を実現し、環境変化も見据えた事業運営の効率化を進めております。

業務改革を通じて職員の生産性は改善

業務改革を通じて、職員一人当たりの生産性は高い状態を維持。高品質かつ公平・公正な試験の提供を持続できる体制を引き続き構築してまいります。

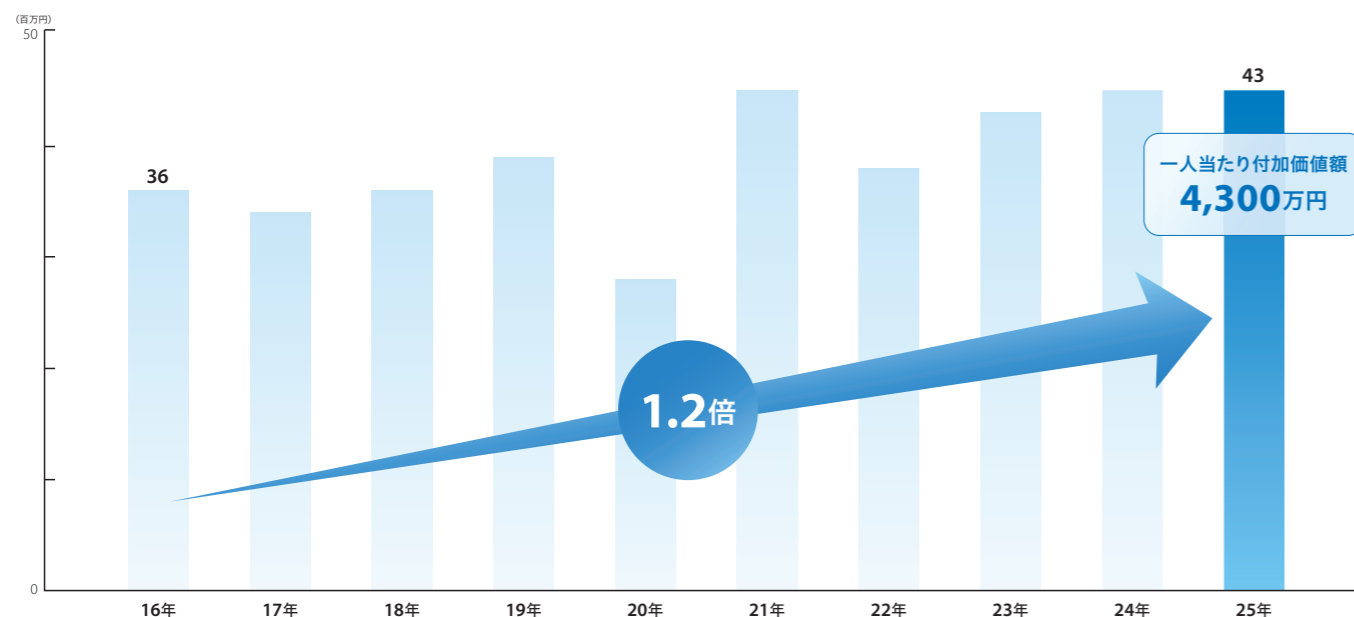
職員一人当たり経常収益の推移



出所) 各検定機関：各機関の報告書及びHP、帝国データバンク、speeda、macro trendsより作成
教育関連企業平均：speedaより国内教育大手7社の平均値を計算率

*25年は速報値

職員一人当たり付加価値額*の推移

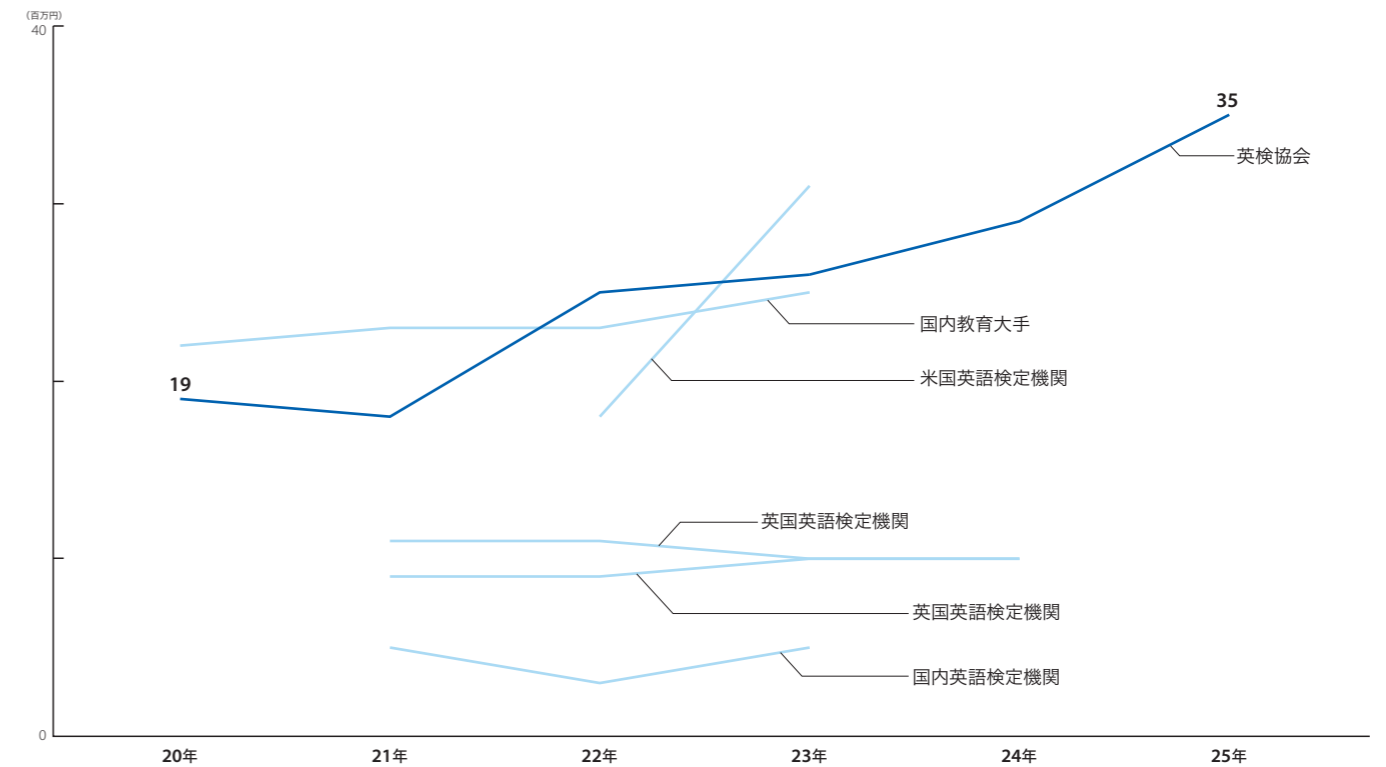


*付加価値額 = 経常収益 - 変動費
*25年は速報値

職員の資本装備率は向上し、ROIを意識した投資により資産効率も関連業種以上の水準

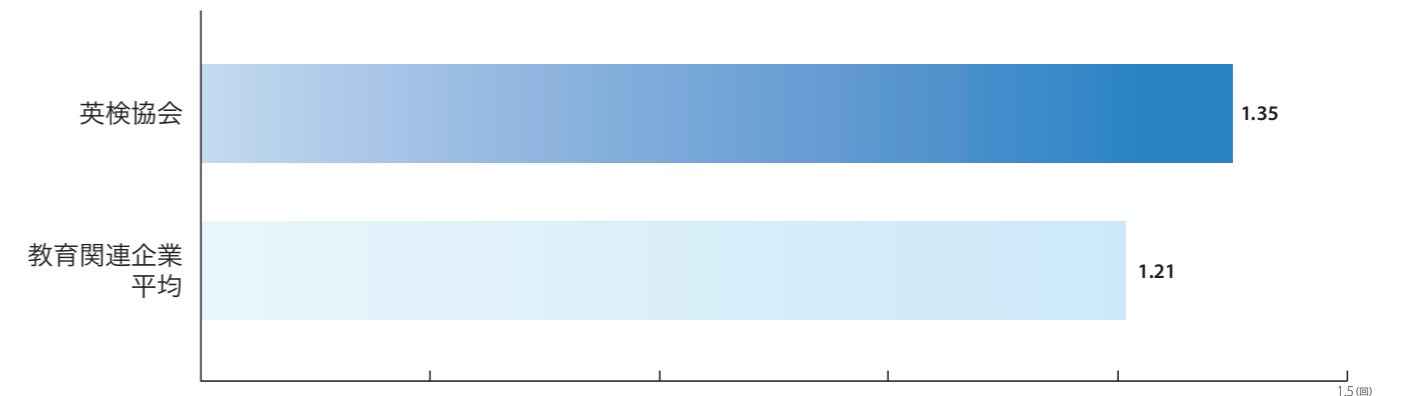
サービスの開発、向上に加え、業務改革など生産性向上に向けた投資を継続しています。結果、職員あたり資本装備率は向上し、主要な教育関連企業並みの資産効率性を維持しています。

資本装備率*の推移



*資本装備率：資本ストック(機械設備や建物などの固定資産の価値)÷従業員数
出所)国内検定機関：有価証券報告書より作成
各検定機関：報告書及びHP、macro trendsより作成

総資産回転率*(24年)



*総資産回転率 = 売上高 / 総資産
出所)教育関連企業平均：speedaより国内教育大手7社の財務データを基に計算

～他グローバル試験と比較しても、受験者数が多く、金額が安価～

グローバル化の進展や大学入試での外部検定入試の増加に伴い、英検テストファミリーをはじめとする英語検定試験の受験者が増えています。グローバル展開する英語4技能試験と比較した受験者数の推移と検定料の推移を紐解きます。

英検の受験者数は国際展開する他の試験と比較しても上位

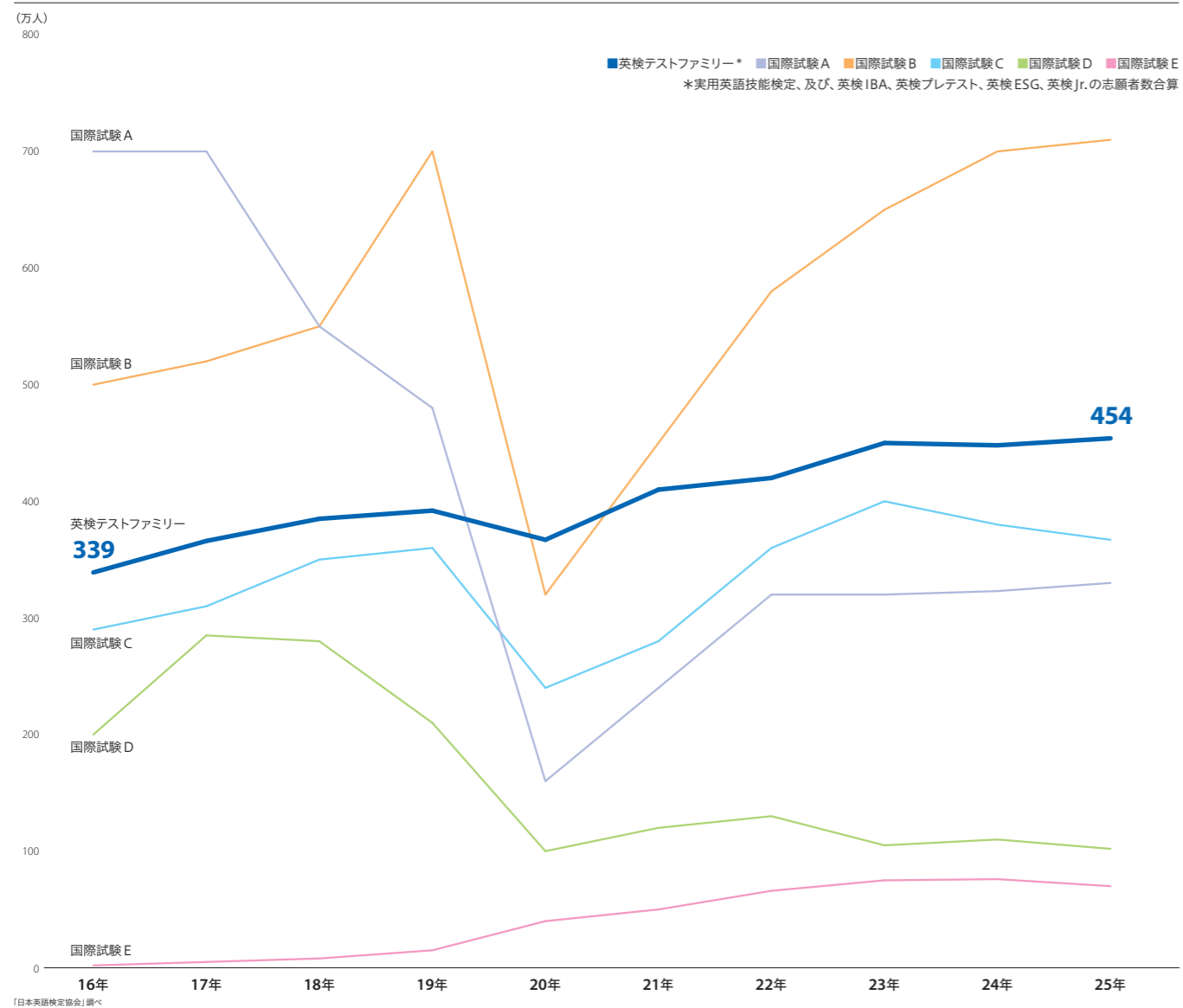
学習指導要領を通じて英語4技能をバランスよく育成することが目指され、文部科学省は中高生の英語力の指標として、中学校卒業段階でCEFR A1(英検3級程度)以上、高等学校卒業段階でCEFR A2(英検準2級程度)以上を達成した中高生の割合を50%以上と示しました。また、大学入試における外部検定入試の利用や高校入試での英検取得者の優遇措置などが広がってきました。

英検協会はこのような国の動向や受験者の需要にいち早く対応し、試験問題の4技能化を進めたほか、公平性・公正性に配慮した試験

環境を整備して受験会場や試験日程の増加やCBT形式の導入を行いました。さらに、受験者の英語力向上につながるフィードバックを成績表に導入するなどの施策も進めてきました。

英検は国内での展開を主としながらも、近年では英検S-CBTの海外展開も広げており、英検テストファミリーの受験者数はグローバル展開するほかの英語4技能試験と比較しても、常に上位を占めるほどの規模で実施しています。

グローバル英語試験との比較(受験者数)



英検の検定料は国際展開する他の試験と比較しても安価

大学入試での利用に備えた環境整備を進めるにあたり、試験実施におけるセキュリティ強化をはじめ、よりセキュアで受験機会を増加することのできるCBT形式のテスト開発と、それに伴う設備投資が求められました。

英検協会では、より安全・安心な受験環境を整備し、試験の品質向上のための研究開発、円滑な試験実施運営に取り組んでおりますが、検定実施にかかる費用の高騰を受け、検定料の改定をせざるを得ない状況にありました。ただし、これは英検の検定料だけに限ったことではなく、ほかの様々な検定試験においても検定料はこの10年で上昇しております。グローバル展開する英語4技能試験の検定料が英検

よりも高価で、最高で6万円台に設定されている現状にあっても、英検協会では、英語学習に取り組む一人でも多くの方々に英検を受験していただけるよう、できる限り検定料を抑えております。

2025年には新たに準2級プラスを新設し、身近な目標級としてご活用しやすい環境を整えました。

これもすべては、定款第3条で定める「日常の社会生活に必要な実用英語の習得及び普及向上に資するため、英語の能力を判定し、また様々な機会を通じてその能力を養成することにより、生涯学習の振興に寄与すること」という目的を実現するためであり、このことが英検受験者数の安定的な増加にもつながっていると考えるでしょう。

グローバル英語試験との比較(検定料)

	16年	17年	18年	19年	20年	21年	22年	23年	24年	25年
実用英語技能検定*1	5,594 円	5,854 円	5,854 円	6,468 円	6,969 円	8,574 円	7,889 円	7,889 円	8,611 円	8,338 円
国際試験 A*2	170 \$ (18,494 円)	242 \$ (27,144 円)	242 \$ (26,722 円)	242 \$ (26,380 円)	242 \$ (25,839 円)	242 \$ (26,560 円)	242 \$ (31,822 円)	242 \$ (33,998 円)	242 \$ (36,630 円)	242 \$ (36,217 円)
国際試験 B*2	180 £ (26,608 円)	197 £ (28,493 円)	204 £ (30,009 円)	210 £ (29,308 円)	222 £ (30,429 円)	240 £ (36,338 円)	255 £ (41,413 円)	287 £ (50,165 円)	304 £ (58,973 円)	325 £ (64,069 円)
国際試験 C*2	158 £ (23,390 円)	175 £ (25,237 円)	176 £ (25,949 円)	192 £ (26,707 円)	191 £ (26,160 円)	182 £ (27,439 円)	211 £ (34,190 円)	225 £ (39,338 円)	245 £ (47,395 円)	257 £ (50,664 円)
国際試験 D*2	180 \$ (19,583 円)	185 \$ (20,751 円)	190 \$ (20,980 円)	200 \$ (21,802 円)	200 \$ (21,355 円)	205 \$ (22,500 円)	205 \$ (26,957 円)	255 \$ (35,825 円)	255 \$ (38,598 円)	270 \$ (40,408 円)
国際試験 E*2	20 \$ (2,176 円)	25 \$ (2,804 円)	49 \$ (5,410 円)	49 \$ (5,341 円)	49 \$ (5,231 円)	49 \$ (5,378 円)	49 \$ (6,443 円)	59 \$ (8,289 円)	65 \$ (9,839 円)	70 \$ (10,476 円)

「日本英語検定協会」調べ
*1 英検検定料は1～3級の検定料の平均を算出しています(4技能の級に限定)
*2 国際試験の検定料は、その年の年間平均レートを使用し、円換算

より高い透明性を担保するために

2025年4月より、英検協会では、理事及び幹事の選・解任及び、役員報酬の支払状況や報酬額の妥当性について、より高いレベルでの透明性を担保するため、指名委員会・報酬委員会を設置いたしました。

指名委員会

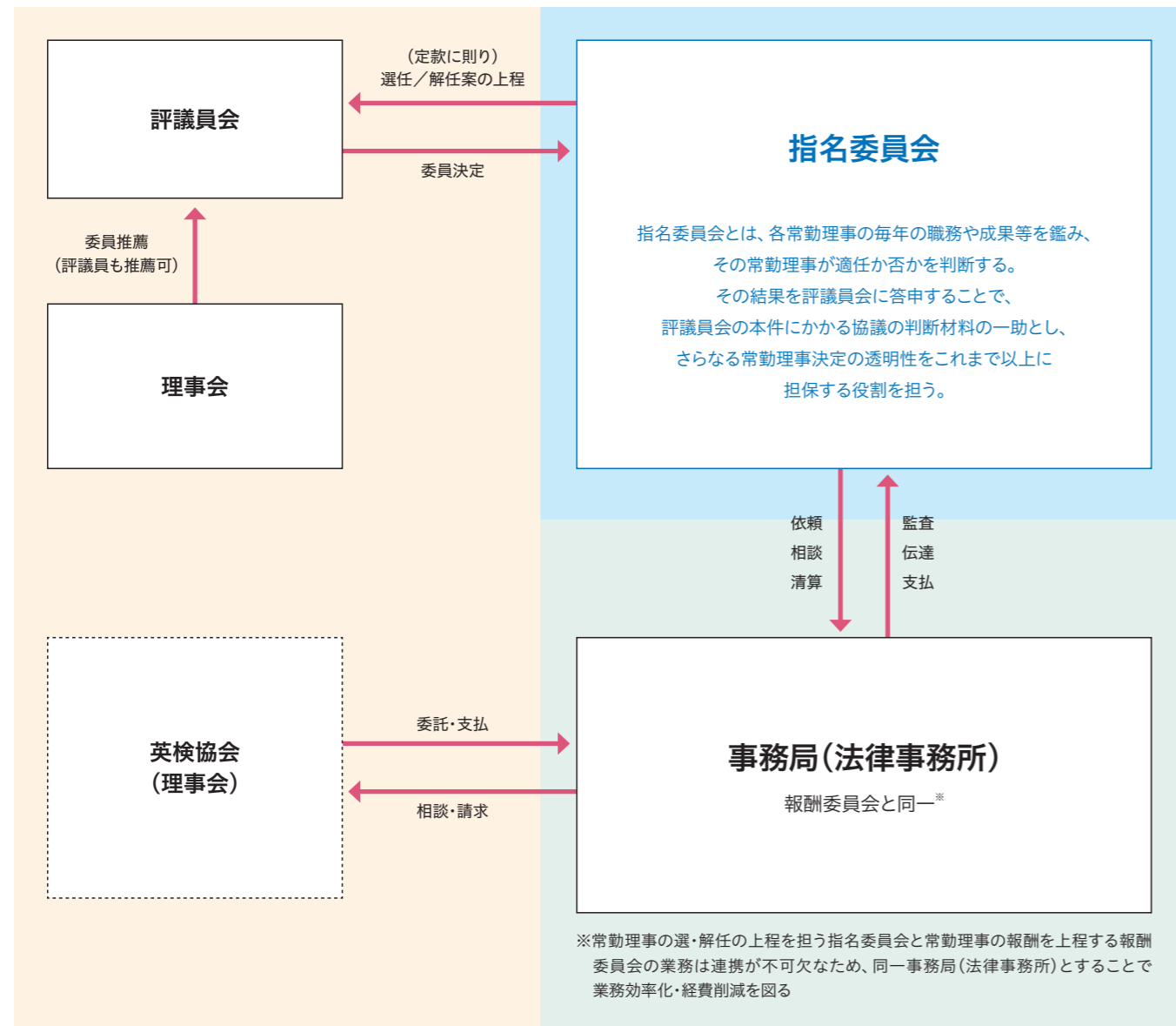
指名委員会は2025年4月、英検協会の理事及び監事の選・解任に関し、その決定における独立性・客観性・透明性及び説明責任をさらに強化することを目的とし、社外者が委員の過半数を占める組織として設置されました。

まず、理事及び監事の選任においては、指名委員会が定款「第28条第1項」に基づき、各役員毎の毎年の職務や成果等を鑑み、適任か否かを判断した議案を評議員会に答申することで、評議員会における

決定の透明性を担保する役割を担います。同様に解任に際しても、指名委員会が定款「第33条」に基づき、評議員会にて検討される解任の議案を決定します。

このように社外者を活用した第三者の視点を確保することで、役員への牽制機能を強化し、より健全な協会運営につなげていくものといたします。

指名委員会の業務体制図



*こちらの指名委員会/報酬委員会は、2026年度のもので、英検協会では、最適なガバナンス体制、透明性の確保に努め、毎年検討し、必要とあれば変更してまいります。

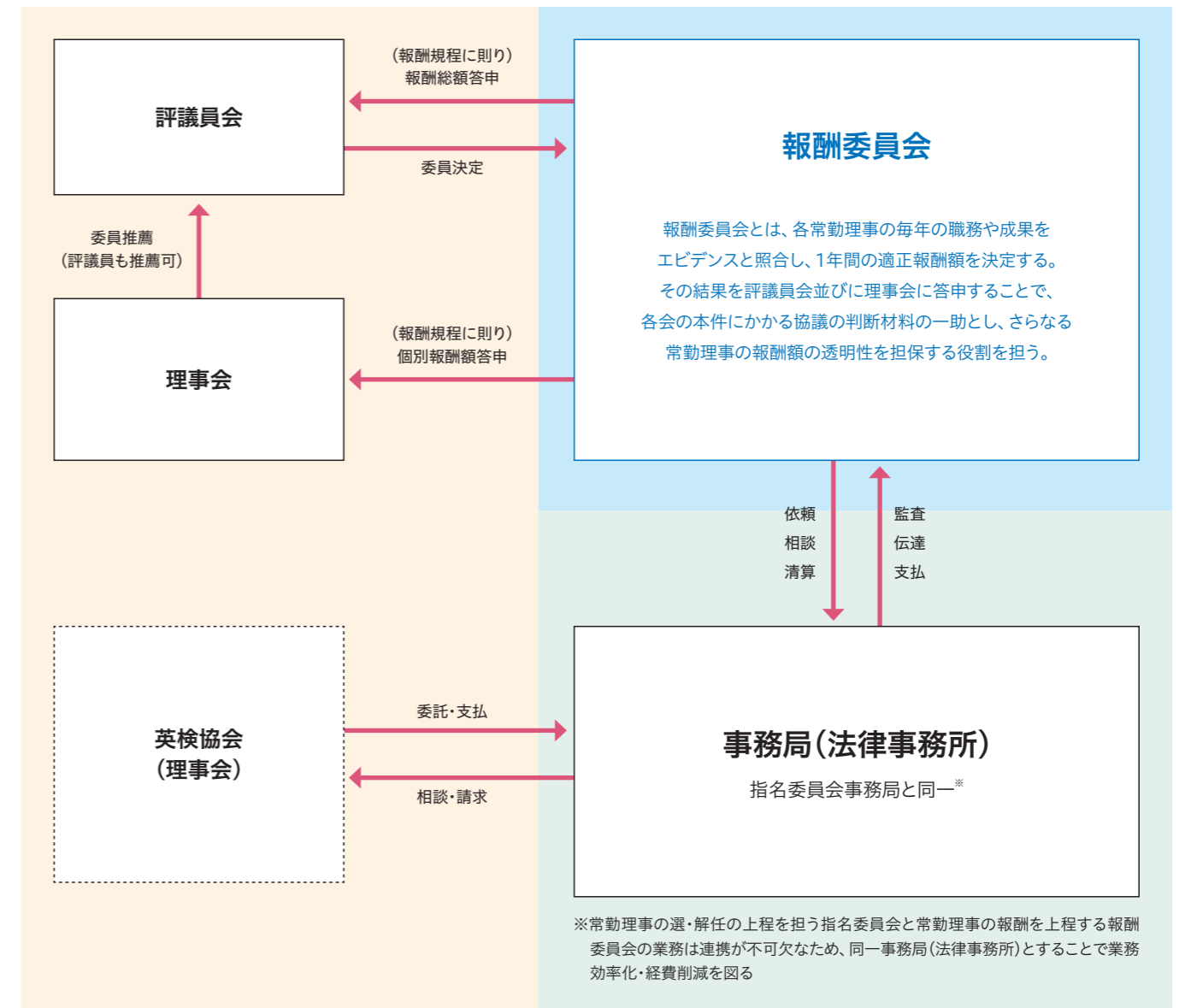
報酬委員会

同じく2025年4月に設置された報酬委員会は、「理事及び監事の報酬及び費用に関する規程」に基づいて決定する理事の報酬に関し、当該決定における独立性・客観性・透明性及び説明責任をさらに強化することを目的としています。

社外者が過半数を占める報酬委員会は3名以上で構成され、理事の職務状況及びエビデンスをもとに、報酬委員会全員の同意をもって

中立的な立場で決議を行います。委員会では評議員会に対して理事及び監事の報酬総額に関する議案の原案を答申するほか、理事及び監事個別の報酬の内容及び金額に関する理事会への答申などを行います。その決定におけるエビデンス等の調査は報酬委員会のもとに置かれた事務局が行うものとし、事務局では報酬委員会からの業務依頼内容を確認し、報酬委員会の目的に照らして必要相当であることを確認したうえで、その業務に対応しています。

報酬委員会の業務体制図



*こちらの指名委員会/報酬委員会は、2026年度のもので、英検協会では、最適なガバナンス体制、透明性の確保に努め、毎年検討し、必要とあれば変更してまいります。

持続的な公益事業を支える基盤整備

通報制度の整備を通じた内部統制の強化

英検協会では、事業の高度化や組織規模の拡大に伴い、組織運営上のリスクを早期に把握し、適切な対応につなげる内部統制の重要性が高まっていると認識しています。こうした考えのもと、通報制度の整備を進め、公益財団法人として求められる透明性や説明責任の向上に取り組んでいます。

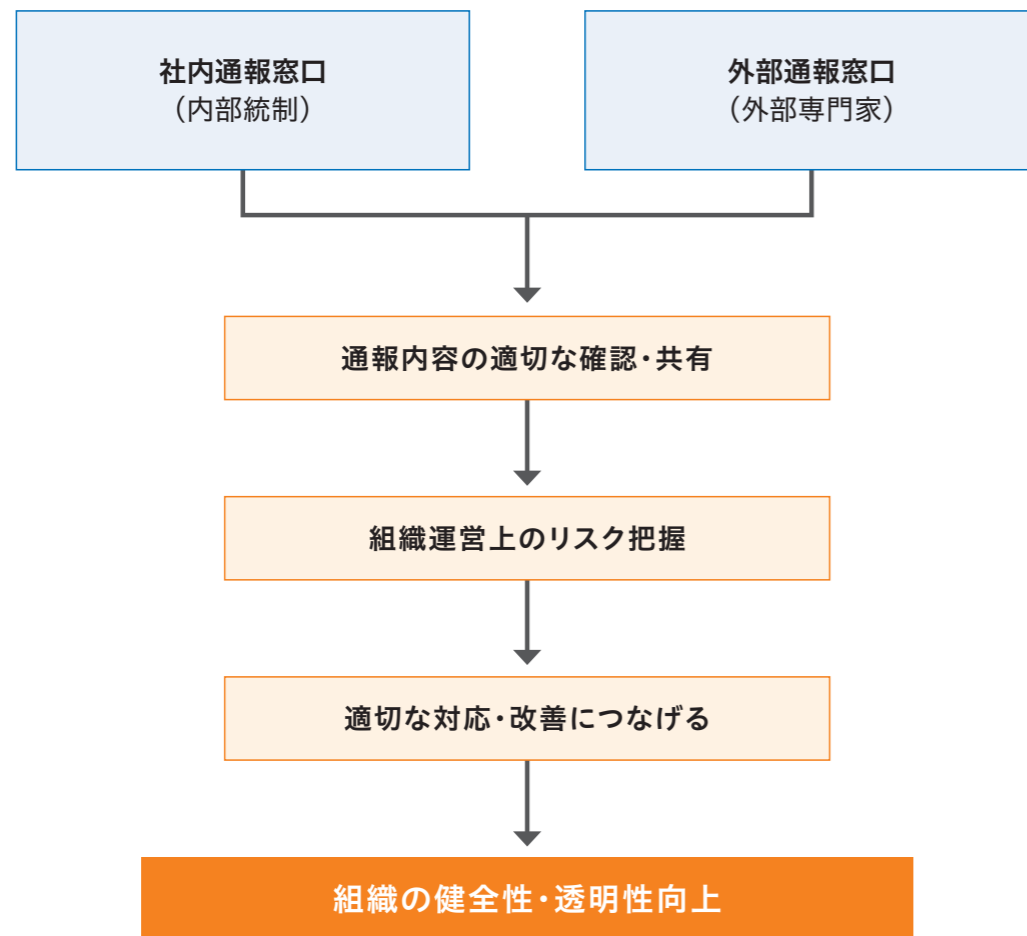
2025年11月、英検協会では、組織内のリスクやコンプライアンス上の懸念を適切に把握するための「社内通報窓口」を設置しました。さらに、2026年2月には、「外部専門家が対応する通報窓口」を新設し、通報チャネルの多層化を進めています。

これらの制度は、問題発生後の対応にとどまらず、安心して声を上げられる環境を整備することで、組織の健全性や透明性の向上につ

なげることを目的としています。また、通報者保護や守秘義務への配慮を徹底することで、公益財団法人として求められる高い倫理観と説明責任を支える体制整備を進めています。

今後も、組織の自浄機能を高めるとともに、風通しの良い組織文化の醸成を通じて、持続的な公益事業を支える内部統制の強化に取り組んでいきます。

安心して声を上げられる環境づくり



ITガバナンスと業務変革を両立する体制づくり

AI活用やプラットフォーム化の進展により、IT投資や業務プロセスの高度化が進んでいます。英検協会では、こうした変化を持続的かつ統制の取れた形で推進するため、ITガバナンスの強化と現場起点の業務変革を両立する体制整備を進めています。

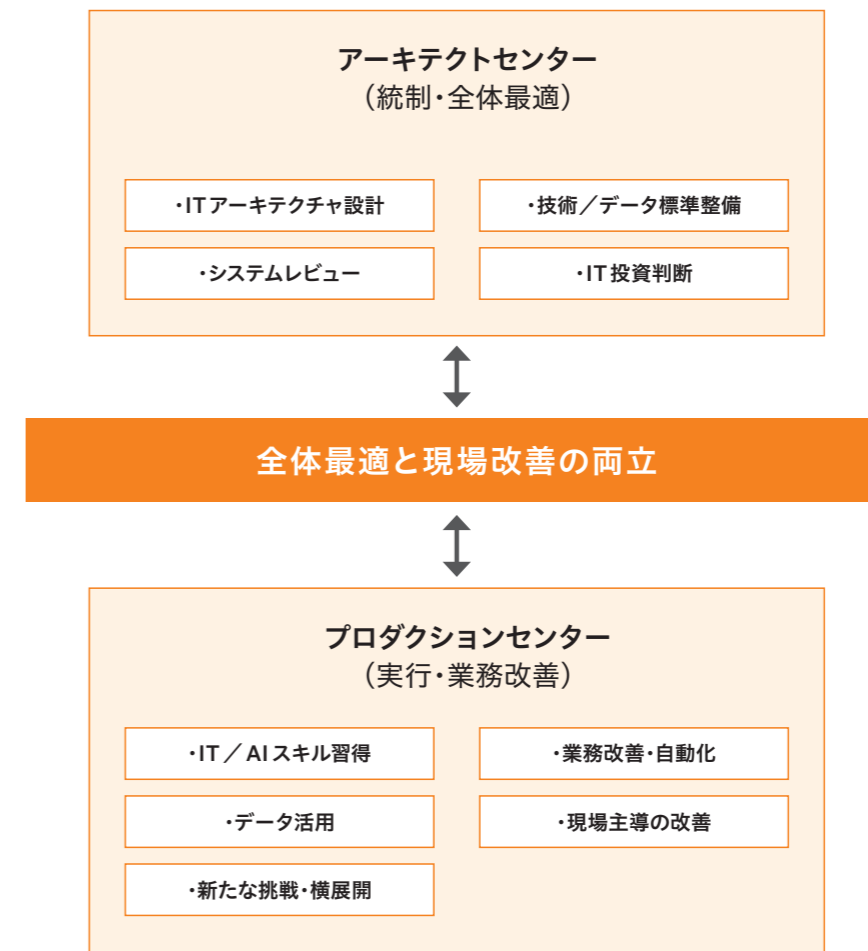
2026年4月、英検協会では、ITガバナンス強化と業務変革推進を目的として、「アーキテクトセンター」と「プロダクションセンター」を新設しました。

アーキテクトセンターでは、協会全体のIT基盤を俯瞰し、ITアーキテクチャー設計やシステムレビュー、技術標準・データ標準の整備などを通じて、全体最適の観点からIT統制を担っています。

一方、プロダクションセンターでは、職員のIT・AIスキル向上支援や業務改善、自動化、データ活用などを推進しています。職員自らが改善を進める力を高めることで、現場起点による継続的な業務改善や新たな挑戦につなげています。

英検協会では今後も、公益法人としての透明性や公正性を重視しながら、AIやデジタル技術を活用した事業変革を統制ある形で推進していきます。

持続的な公益事業を支えるIT基盤



実用英語を考える。 世界へ羽ばたく人材を、育てる。

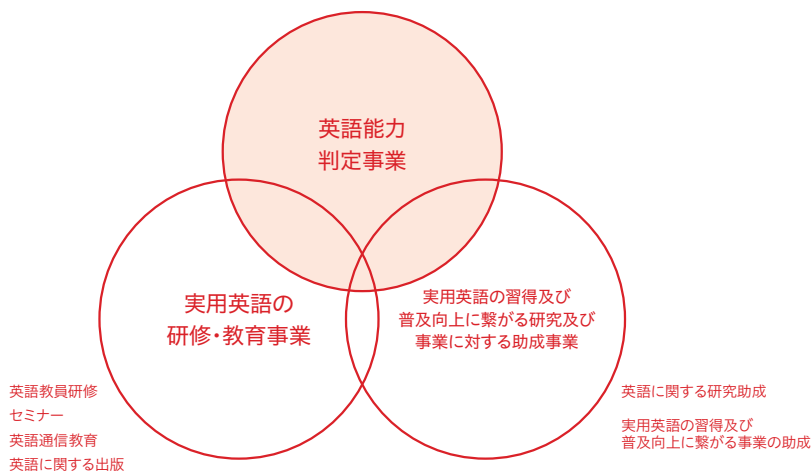
日本英語検定協会は、英検をはじめとする各種検定事業を中心に、実用英語の普及、向上を目的とした調査研究や研修、研究助成などの事業を行っています。

法人概要

名称 公益財団法人 日本英語検定協会
設立年 1963年
代表者 理事長 松川 孝一

協会理念 日常の社会生活に必要な実用英語の習得及び普及向上に資するため、英語の能力を判定し、また様々な機会を通じてその能力を養成することにより、生涯学習の振興に寄与することを目的とする。

主な事業 日本英語検定協会は、公益財団法人として、多様な公益目的事業を行っています。



英検

公益財団法人 日本英語検定協会

〒162-8055 東京都新宿区横寺町55番地
<https://www.eiken.or.jp/>